

胃がん発症に深く関わる **ピロリ菌** を知る

1. ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）って何だろう？



一匹のピロリ菌



胃の中に集団でいる様子

ヒトの胃の粘膜にすみつく細菌で、一度、ピロリ菌に感染すると、菌はそのまま胃の中に定着し、ほぼ一生持続します。通常、細菌は、胃の中では強い酸性の影響で死んでしましますが、ピロリ菌は自ら酵素を出し、アルカリ性のアンモニアを作り出し、胃酸を中和することによって生存しています。

ピロリ菌に感染するのは、免疫力が弱い5歳くらいまでの乳幼児期で、多くは家庭内での感染と考えられています。

2. ピロリ菌はどんな病気を引き起こすの？

ピロリ菌に感染すると、ピロリ菌が発するアンモニアや毒素などによって、胃の粘膜が炎症を起こします
萎縮性胃炎、胃潰瘍、胃がんなど（進行経過は別紙個別）

[感染経路]



口(くち)うつしや、親が咀嚼したものを
子供に食べさせる
口(くち)を介した感染



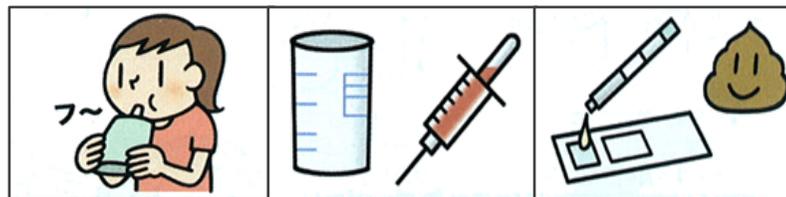
衛生状態の整っていない時代
ピロリ菌の混じった
水や食べ物を口にする事で感染

3. ピロリ菌に感染しているかどうかを知るためには？



[内視鏡検査]

○胃の粘膜の一部を採取し、pH指示薬で反応を見たり、組織培養を行う



[尿素呼気試験]

○薬を飲んでから吐いた息を調べる検査

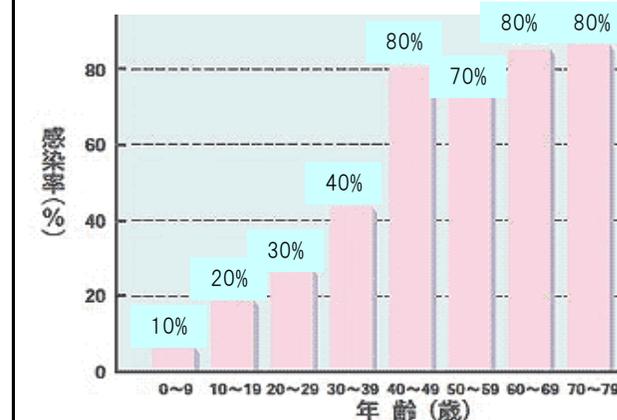
[抗体検査]

○血液や尿を採取し、抗体の有無を調べる

[便中抗原検査]

○便の中にピロリ菌が含まれるか調べる

[年代別感染率]



参考：わかりやすい病気のはなしシリーズ29 ピロリ菌感染症